

6. さらなる実現にむけて

一日も早い実現を目指そう！

1. 目標意識を持って進めよう ～いつまでに実施するか～

今回の市民提案は、川崎宿が誕生して 400 年を迎える 2023 年を目標年度と想定しています。今回提案されたアクションを実現するためには、長期的な視野に立ち、どの提案から、どのような手順で実現していくのか、優先順位を明確にすることが重要です。

また、長期的な視野から、年度ごとに短期（3 年以内）から中・長期の具体的な実施目標を掲げ、目標に沿って各アクションに取り組めます。

優先順位を決めるにあたっては、提案内容の緊急性はもとより、担い手の有無、資金面での裏付けなどを十分に踏まえて検討します。

2. 役割分担を明らかにしよう ～実施主体は誰か～

今回見直された提案の中には、東海道川崎宿を活かした地域活性化推進組織のみで実現できる提案、地元の商店街や企業、寺社、学校等と一緒に実現する提案、行政とともに協働で実現する提案など、さまざまな提案が含まれています。また、市の財政が厳しい中であって、資金面を行政にばかり頼ることはできません。

「(仮称) 文化交流拠点施設」の整備一つをとっても、整備後の維持・管理、運営等に人手や労力、さらには知恵やアイデアを出すことで、経費の削減はもとより、より充実した施設の展開が可能になります。

誰が、どの部分を担うのか、各主体の役割分担を明確にするとともに、各主体が連携することで、より大きな力を発揮できるようにします。

3. 組織の強化・充実を図ろう ～自立した組織をめざす～

東海道川崎宿 2023 では、「東海道川崎宿 2023 いきいき作戦」作成後、さまざまなアクションに取り組み、成果を上げてきました。会の発足後すでに 6 年が経過し、閻魔寺寄席や坂本九さん追悼コンサートなど継続して実施しているアクションに関しては、運営のノウハウも蓄積されています。

今後は、さらに組織の強化・充実を図ることにより、東海道川崎宿 2023 が、東海道川崎宿を活かしたまちづくりを進めていく上で、中心的な担い手組織の一つとなることを目指します。

4. 選択と集中で取組もう ～“あれもこれも”から“あれかこれか”へ～

昨今の日本経済を取り巻く環境の厳しさを肝に銘じて、「あれも、これも」という発想ではなく、「あれか、これか」という選択と集中の視点から、大胆かつ周到に、提案の実現に向けて道筋をつけることが必要です。ついては、4 つのテーマごとに、たとえば以下のようなアクションに絞り込んで取組めます。

(1) 拠点づくり：「(仮称)文化交流拠点施設」の維持、管理・運営への参加

待望の「(仮称)文化交流拠点施設」が、平成25年度中に整備されます。「(仮称)文化交流拠点施設」は、東海道川崎宿の情報発信拠点としてはもちろん、川崎宿を活かしたまちづくりの拠点となる施設です。そこで、施設の維持、管理・運営にあたっては、地域が積極的に関わることが重要です。東海道川崎宿2023はもちろん、地元NPOや商店街、企業、観光協会、商工会議所など、多くの人たちが関わることで、より魅力的な施設づくりを進めます。

(2) まちなみ整備：楽しく歩ける歩行空間の整備

商店街や関係機関と協力しながら、誰もが安全に、安心して歩ける歩行空間づくりを進めます。

また、楽しく歩ける仕掛けとして現在取組んでいる浮世絵シャッター絵に関しては、今後も継続して整備を進めるとともに、写真展やツアーの開催、マップの作成、店の開店時の写真の展示など、その活用に努めます。

(3) 文化の創出：ゆかりの人物坂本九さん関連イベント等の開催

坂本九さんに関しては、毎年コンサートの開催やゆかりの人から話を伺い冊子にまとめるなど、顕彰を進めています。平成23年度は、坂本九さんの生誕70周年にあたり、記念事業の開催等を進めます。

(4) 情報発信：名物・名製品の開発

さまざまなアクションを起こすためには資金が必要です。多くの人が川崎宿を訪れても、それが経済効果に結びつかないと、まちづくり活動は長続きしません。そこで、川崎宿を訪れた人が買って帰りたくなるような、名物・名製品を開発します。たとえば、かつて川崎宿や大師河原の名産品であった、麦わら細工の作成・販売などに取組みます。